

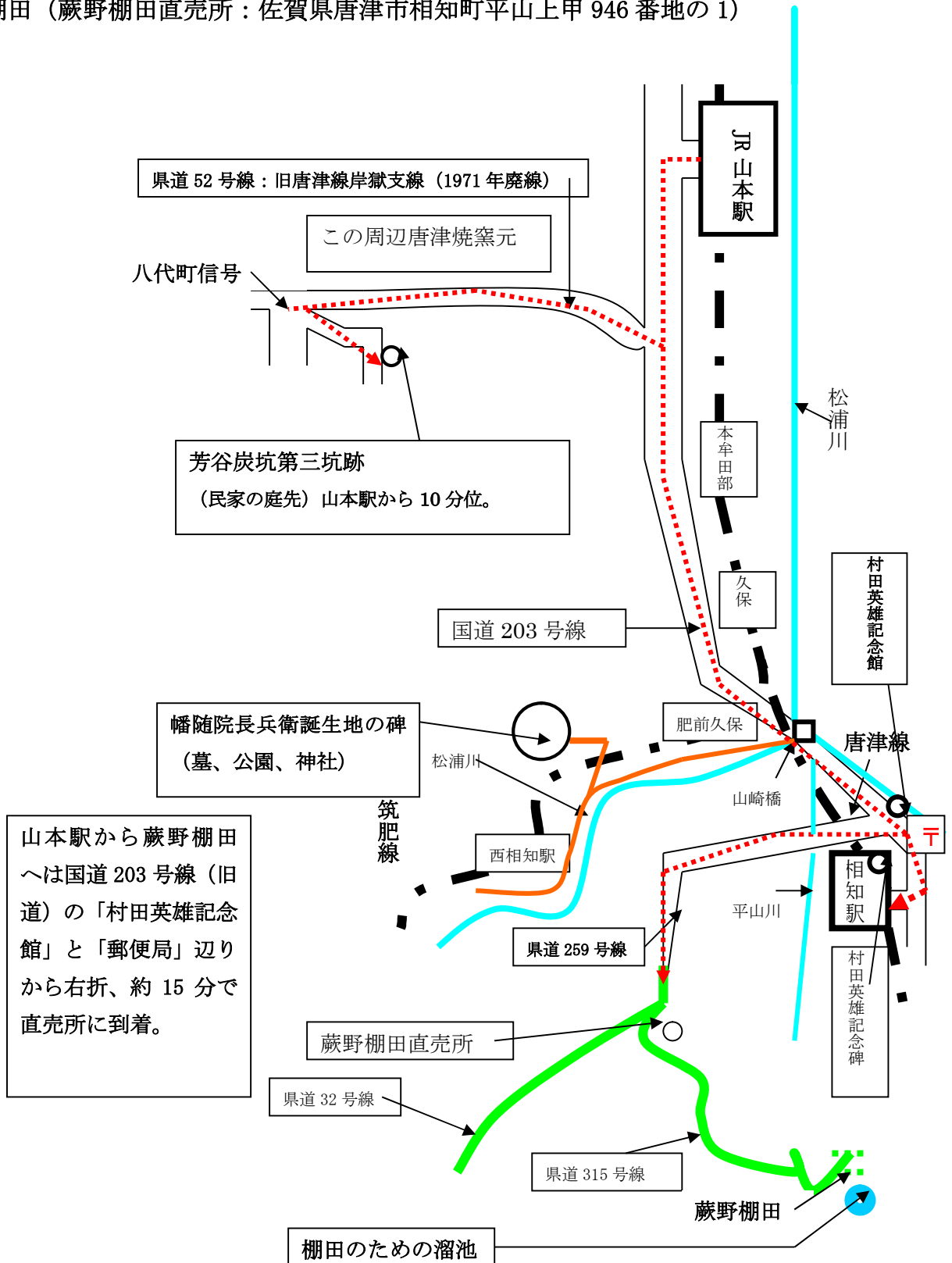
山本駅 (佐賀県唐津市山本 469)

芳谷炭鉱第三坑跡 (佐賀県唐津市北波多岸山 397 付近)

相知駅 (佐賀県唐津市相知町相知 30-2)

幡随院長兵衛誕生地の碑 (佐賀県唐津市相知町久保)

蕨野棚田 (蕨野棚田直売所：佐賀県唐津市相知町平山上甲 946 番地の 1)



山本駅から蕨野棚田へは国道 203 号線 (旧道) の「村田英雄記念館」と「郵便局」辺りから右折、約 15 分で直売所に到着。

山本駅

唐津線と、山本駅を起点とする筑肥線の2路線が乗り入れている。ところで、筑肥線の列車は全列車が唐津線に乗り入れて唐津駅または西唐津駅始発・終着で運行される。かつては唐津線と筑肥線の唯一の接続駅で、唐津線の岸嶽支線の起点でもあったため山本駅は唐津市内の鉄道の乗換駅として賑わい、急行「平戸」も停車していたこともあり、交通の要衝であった。だが1971年に岸嶽支線が廃止されるとともに、1983（昭和58年）年には筑肥線の博多～姪浜間が地下鉄乗り入れのため、部分廃止によって唐津線と筑肥線姪浜駅・博多駅方面との接続機能は唐津駅に移行した。現在も唐津線と筑肥線伊万里駅方面との接続機能は残されているが往時の賑わいはなく、唐津市と佐賀市、唐津市と伊万里市を結ぶ2つの路線それぞれの中継駅としての役割となっている。

参考文献

弓削信夫『明治・大正・昭和 九州の鉄道おもしろ史』西日本新聞社. 2014年10月. 230-257頁.

宇都宮照信編『九州 鉄道の記憶—名列車・名場面・廃止線—』西日本新聞社. 2002年12月. 32-33頁.

宇都宮照信編『九州 鉄道の記憶—心に残る駅の風景—』西日本新聞社. 2004年10月. 168頁.

芳谷炭鉱第三坑跡

北波多村においては、享保年間（1716～1735年）に岸山村に発掘されて以来、芳谷炭坑、唐津工業所をはじめとする大小さまざまな炭坑があったとの記述がある。そして、そこには明治30年代の岸岳炭鉱開発当時、明治35年ごろの芳谷炭坑の盛況な事務所付近などの写真と北波多村全図がある。山本駅から旧岸嶽駅までは唐津線岸嶽支線が1971（昭和46）年に廃線となり、県道52号線となっている。

参考文献

北波多村村史編纂委員会『北波多村史 下巻』北波多村, 1968(昭和38)年4月.

相知駅

相知駅は唐津線の簡易委託駅であるが、観光案内所がある。また、相知駅前には村田英雄記念碑がある。旧道にあり、古い昭和の名残を残しているとともに、近くには村田英雄記念館がある。村田英雄[1929（昭和 4）年～2002（平成 14）年]の福岡県雨季は待ち吉井であるが、出身は佐賀県東松浦郡相知町佐里の演歌歌手である。日本の歌謡史に残る大歌手で、代表的な楽曲は「王将」、「柔道一代」、「人生劇場」および「無法松の一生」など数え切れないほどのヒット曲がある。

幡随院長兵衛[1632(元和 8)年～1657（明歴 3）年 7 月 18 日]

江戸前期の侠客であり、肥前唐津の武家出身[松浦党盟主波多参河守親（岸獄城主）^{注1}が豊臣秀吉の勘気につれ、波多家が滅亡したため、父塚本伊織は長兵衛を連れて江戸の向かう途中下関で病死、1人で江戸の幡随院和尚を頼った]。本名は塚本伊太郎である。江戸上の池之端幡随院の住職を師と仰ぎ、幡随院長兵衛と名乗っている。長兵衛は浅草花川戸に住み、人入れ家業を行い、旗本奴に対抗して、調整の首領として活躍したが、旗本奴大小神祇組の首領水野十郎左衛門の家で殺害された。長兵衛の任侠は巷でもはやされ歌舞伎や浄瑠璃にて上演された。河竹黙阿弥作「極付幡随院長兵衛」が有名である。現在の JR 筑肥線の肥前久保駅は、北九州鉄道会社線時代（大正～昭和 12 年）において幡随院駅であったが、昭和 12 年に当時の国鉄の買収によって肥前久保駅となっている^{注2}。

注 1) 木原武雄『風雲 肥前戦国武将史—戦国武将伝と山城散歩—』佐賀新聞社. 1995 年 1 月. 240—264 頁.

注 2) 弓削信夫『明治・大正・昭和 九州の鉄道おもしろ史』西日本新聞社. 2014 年 10 月. 246—247 頁.

参考文献

尾崎秀樹他編『新潮日本人名辞典』新潮社. 1995 年 5 月. 1414—1415 頁.
幡随院長兵衛誕生地の碑の説明版より

蕨野棚田

蕨野棚田は八幡岳（標高 763.6m）の中腹で、200～400mのところにある。この周辺には民家が無く、生活排水の入らない清水で育てられている。平地より気温が低く水温も低いので、生育に時間を要するともいわれるが、棚田ゆえの寒暖の差と清水で品質が良く美味しい米との評判である。栽培管理として、稲を刈り取った後、藁をすべて鋤き込み、10月に菜の花の種を蒔き花が咲いたあとは鋤きこんで肥料としている。9月下旬に稲刈りを行い、自然に近い状態でモミの風乾燥を行っているとのことである。江戸期から人の手で積み上げられてきた棚田は、ため池による水の管理がなされ暗渠で下の棚田へ送水されている。蕨野棚田は「日本の棚田百選」、そしてその歴史的価値により文化庁によって「重要文化的景観」に選定されている。

参考文献 蕨野棚田保存会「棚田米「蕨野」の特徴」パンフレットより



山本駅



山本駅



山本駅構内（伊万里・久保田方面）



山本駅舎内にある路線図



芳谷炭坑第三坑口の説明版



芳谷炭坑第三坑口



芳谷炭坑第三坑口



芳谷炭坑第三坑口



芳谷炭坑跡周辺



芳谷炭坑跡周辺



相知駅



相知駅ロータリーにある村田秀雄記念碑



相知駅前の街並みで、この道の左方面が村田秀雄記念館



相知駅（唐津線）を唐津方面に発射する電車



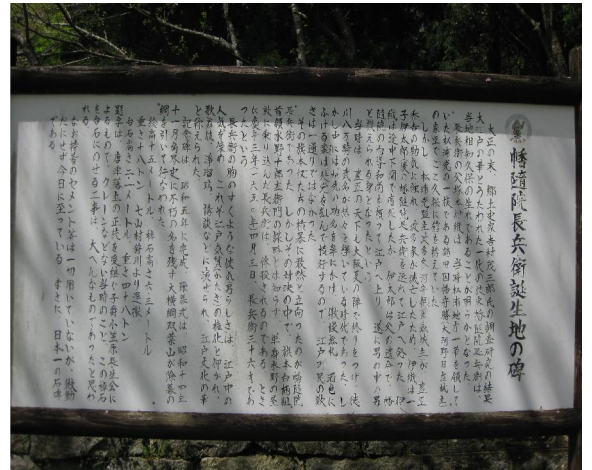
唐津線で佐賀方面へ行く電車



筑肥線西相知駅から肥前久保方面、この線路の左側が相知町町史によれば、炭坑跡としての地図が掲載されている。



肥前久保駅そばにある幡随院長兵衛誕生地の碑



幡随院長兵衛誕生地の碑の説明版



筑肥線肥前久保駅（その昔、幡随院駅）



蕨野の棚田



蕨野の棚田



蕨野の棚田



耕地整備記念碑



棚田に送水するための管理システム



大平の棚田



蕨野の棚田



蕨野の棚田



蕨野棚田の江戸期からの説明版



蕨野の集落